

「持続可能な低炭素都市なごや」を実現しましょう アンケート

CANは、2015年11月7日(土)、栄 オアシス21で開催された名古屋消費生活フェアにブース出展した。

11月7日(11時～17時)に対話しながらアンケートを実施。

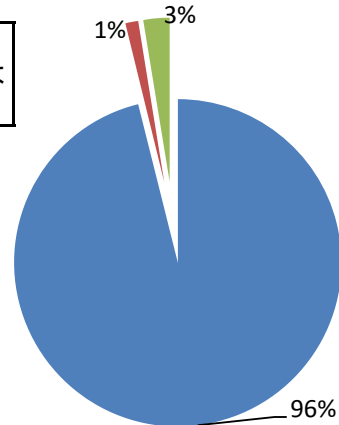
155名の市民の対話、アンケートに回答いただいた。

以下その際の会場アンケート結果です。

1. 気候変動・地球温暖化について

現在、パリにおいてCOP21が開催されて気候変動対策が話しあわれようとしています。温暖化問題についてあなたはどのように思いますか？

a. 地球温暖化が進んでいることに危機感をもっている。	96%	149
b. 地球温暖化が始まっていることを知らなかった。	1%	2
c. 地球温暖化は、「予測」であって事実だとは思わない。	3%	4



155

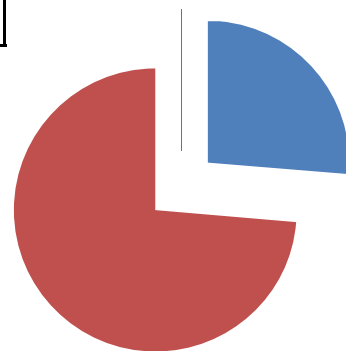
○ ほとんど(96%)の方が、地球温暖化に危機感を持っていた。

○ 温暖化懐疑論の方も 3%いた。

2. 「低炭素都市2050なごや戦略」について

名古屋市は、「低炭素都市2050なごや戦略」において、2050年には、CO2排出量の大幅削減をめざしています。この取り組みをあなたはどう思いますか？

a. 「なごや戦略」があることを知っていた。いいことだと思う。	26%	39
b. 「なごや戦略」があることを知らなかった。いいことだと思う。	74%	109
c. 「なごや戦略」は、必要ない。力を入れて取り組むことではない。		0
d. その他、「なごや戦略」についてご意見があれば自由にお書きください。		0



148

○ 知らなかったが、いいことだと支持する方が、7割以上いた。

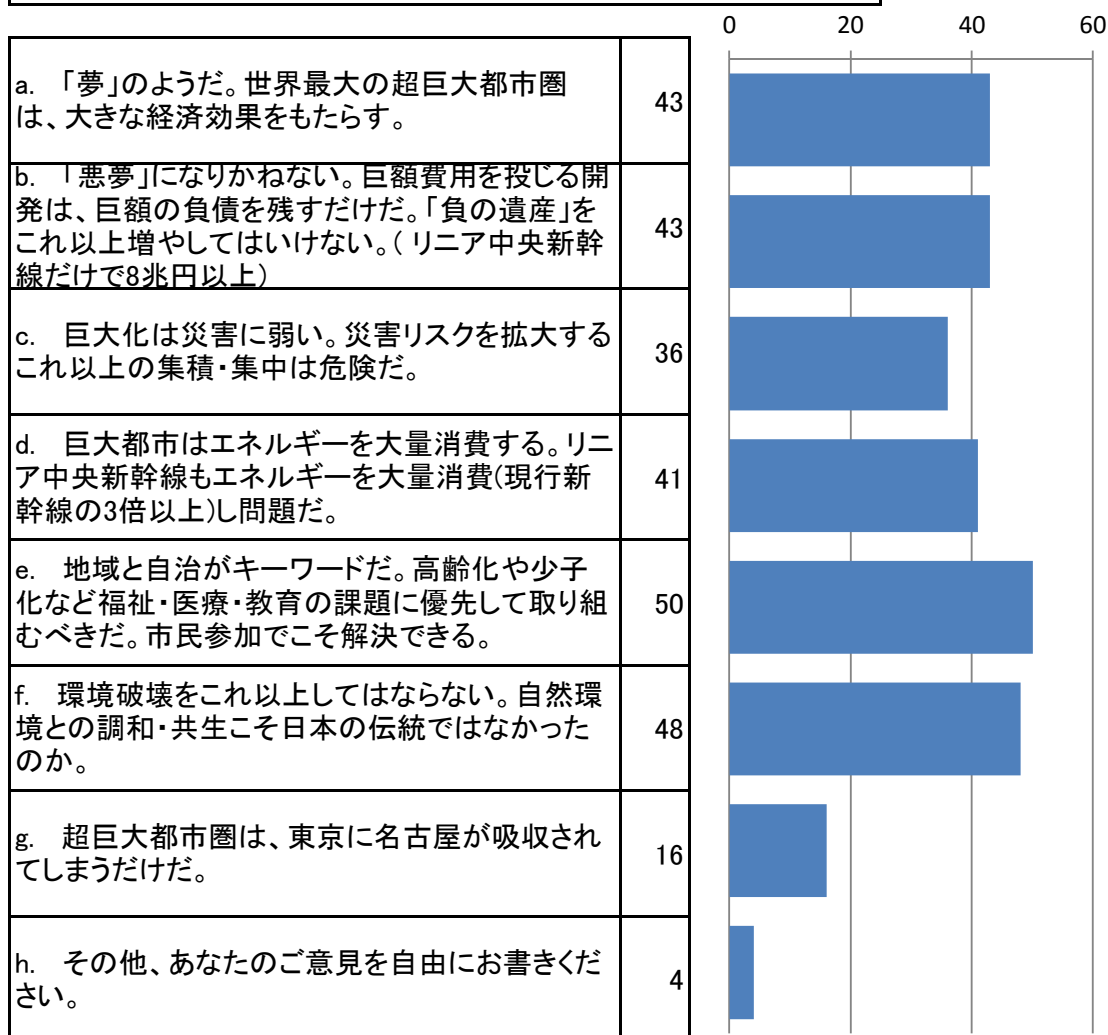
○ 必要無い、取り組む必要はないという方は、0だった。

○ 「なごや戦略」を知れば、市民は支持し参加する。魅力ある「なごや」づくりの原動力となる。市役所はもっと積極的に取り組むべきだ。

3.超巨大都市圏(東京+名古屋+大阪)構想をどう思いますか？

超巨大都市圏=スーパーメガリージョン

リニア中央新幹線により人口 6千万人の超強大都市圏が推進されようとしています。あなたどう思いますか？



- リニア中央による超巨大都市圏構想(スーパーメガリージョン)について、「夢」と「悪夢」と答えた方が、偶然にも同数だった。
- 巨大化による災害リスクの増大、エネルギーの大量消費に対する危惧、環境破壊への危惧も多数あった。
- なによりも一番多かったのが「地域と自治がキーワード」「高齢化や少子化、福祉・医療・教育の課題に優先して取り組むべき」だ。行政が今何を最優先に取り組むべきか、これが名古屋市民の意志ではないだろうか。

「ワクワクできる街にしよまい！」あなたのアイデアを形にして、パネルにお貼りください。

* お書きいただいた項目をそのまま掲載。

- ・ 市の入り口に安い駐車場を。車の乗り入れ減らして。
- ・ 大きい道(車道)を活用して、自転車や緑道を増やしてほしい。
- ・ エコな乗り物である自転車の安全走行確保のため歩道と車道の他に自転車道を整備して欲しい。
- ・ 自転車をどこでも無料で利用できる。
- ・ 歩道を広く活用してほしいです。

- ・ バスや自転車道の整備をし排気ガスの排出を少なくする。
- ・ 「バスで出かける楽しい場所」マップを作る。バスの乗り方がむずかしいので、それをきっかけに慣れてもらう。
- ・ 錦通りと桜通りを一方通行とする。

- ・ 水運。中川、堀川に水上バスを。

- ・ エスカレーターしかない駅のエスカレーターを減らして階段を設置してほしい。(金山駅の地下鉄—JR、名鉄駅)

- ・ 公園などに木がたくさんある町。
- ・ 環境緑化する。そこでオープンカフェとかいいかもですね。
- ・ 緑がたくさんある街！
- ・ 緑がたくさんある町。
- ・ 緑を増やす。
- ・ 緑の多い町★
- ・ 花と緑、豊かな町にしたい
- ・ ところどころ広場がある。
- ・ 自然を増やしてエコな生活。

- ・ 空気がきれいな町づくり。

- ・ 子どもと高齢者が楽しく生活できる名古屋市。
- ・ たのしいまちにしたい。
- ・ たのしいまち。
- ・ ぞうさん、ライオンさんもいる街。
- ・ 明るくて思いやりの心を持つ町にしたいO. K!!
- ・ 老人パワーで出来る事を!!

- ・ 個人個人が理解し、日常生活における的確なものにすべきだ。

- ・ 水、エネルギーの無駄使いはとにかくやめよう!!

- ・ 自然と便利の調和。
- ・ お金の使い方、もっと有効に!!
- ・ 生活保護法の改善。

- ・ 行政の見える化を!!

「なごやをワクワクドキドキのまちに！」

2日目、11月8日はキッズ向けのイベントとして紙工作のジオラマに塗り絵をしながらワクワクする街づくりに、多くの親子に参加いただくことができました。



(文責/大村昌宏)